

東京大空襲

ガラスのうさぎ

2102

いつか
き、
とかわいい

おまえたかの妹を

つく、
こあい

るか
らね

灰色の街をひとり

けなげに生きぬく12才の少女敏子



父が残したガラスのうさぎ。
母と妹も愛したガラスのうさぎ。
溶かした炎をなすれない。

国際児童年記念企画

橋 祐典監督作品

長門 裕之
長山 藍子

蝦名由紀子
大和田 猛修

佐久田 日色と
木村 夏

荒木 今岩
三崎 千恵

花沢 德豊
福藤 釜足

前田 彦子
南田 武洋

ハナ 駿
海援隊

敦郎
武田 敦郎
野原嘉二郎
荒木敬二郎
亀田誠志郎
佐藤正大
高木敏子

原作 (金の星社) ガラスのうさぎより
脚本 立山伴平
撮影 本川田
照明 田中六郎
美術 内田禮
音楽 小香園
編集 寿康
音楽 助理 飯田
録音 道次郎
音楽 次郎
美術 稔行之
撮影 勝哉
照明 駿功
美術 勝哉
助監修 寿康
制作主任 駿功
制作 大映映像株式会社
企画 共同映画企画会議
配給 共同映画企画会議

「ガラスのうさぎ」製作配給委員会
東京都渋谷区桜丘町15-11
共同映画㈱内 TEL(463)8245

ガラスのうさぎ

かいせつ

■「ガラスのうさぎ」は、著者の高木敏子さんが、亡き両親と二人の妹の三十三回忌にその供養と、戦争を知らない子ども達に戦争の悲惨さと恐ろしさ。平和の尊さを知つてほしいという願いから、「私の戦争体験」という小冊子をつづり、知人へ配布したものが加筆され、77年12月出版されたものです。

■十二才の少女の体験と目を通して書かれたこの本は「母が子に語る戦争体験」として大きな感動をよび、すでに三十万部をこえるベストセラーとして読みつかれています。

■戦争体験の風化が伝えられる今日、戦争を知らない世代にその実体を伝え、平和の尊さを次代にうけついでいく願いをこめて、今年一九七九年国際児童年をむかえるにふさわしい企画として、一年がかりで映画化の準備がされてきました。

■製作は、数々の名作を生みだした大映の伝統をうけつぐ大映映像に、教育と平和の課題に一貫してとりくんできた共同映画全国系列会議が提携し、上映を担当します。

■監督は、「どぶ川学級」をはじめ独立プロで活躍する橋祐典が。脚本には女流ライターの立原りゆうが心をこめ、全スタッフが情熱をもつてとりくみました。

昭和十九年——日本の敗色はこくなつていた。米をはじめ食料品、衣料品等生活必需品は配給制度になつて久しかつた。青年は次々と戦場にかりだされ、学生も学徒兵として出征し、壮年男子も軍需工場に動員され、十四才以上の女学生も女子挺身隊員として徴用されていった。

■ここ、東京両国の川井ガラス工場も、父の房雄が最後の「ガラスのうさぎ」の置物をつくっていた。工場は軍の指定工場となり、房雄も満州へ技術指導にいくことになった。小学六年生の敏子の二人の兄も、すでに特攻隊員として志願していました。

長兄の昭雄は戦地への出発を前に家族に別れをつけにくるが、病弱な母、よし子の「命を大切にして」という言葉に、「命は陛下とお国にささげているんだ。俺たち若い者が死ななくて誰が死ぬんだ」と反撥し、悲しい別れとなってしまった。二日後には次兄、和雄の面会日だったが、やむなく敏子一人が西宮へ会いにいった。

やがて米軍機による空襲ははげしくなり、都市から学童疎開が始まり、敏子は妹の友子と文子をつれ二宮へ疎開したが、幼い妹達は母恋しさに東京に逃げ帰ってしまう。一人のこつた敏子に、母と妹が三月十日の東京大空襲で行方不明という知らせが。だが遺体は見つからず、工場

ものがたり

昭和十九年——日本の敗色はこくなつていた。米をはじめ食料品、衣料品等生活必需品は配給制度になつて久しかつた。

八月五日、二宮駅で新潟へむかうため敏子と父は列車を待つていたが、突如P51米軍機がおそいかかり、機銃掃射によつて目の前で父は殺された。ひとり残された敏子は、涙こらえて父の遺体を運び、埋葬の手続きをすますのだった。悲しみにうちひしがれ、夜の海に歩み入る敏子だが、「私が死んだら誰がお父さんのおとむらいをするの?」暗い波の中から再び立ちあがつた。

■八月十五日、父の死から十日たらずで敗戦となつた。次兄の和雄が復員してきた。「大きいお兄ちゃんが帰つてきたら三人でガラス工場をつくろう」と敏子は、亡き父母から託された貯金を兄に渡した。焼跡に家を建てる間、また敏子は一人、叔母のもとに身をよせた。しかし、敗戦の混乱の中、生活はきびしく誰もが生きることに必死だった。

再び一人上京した敏子、長兄の昭雄も復員してきたが、その喜びもつかの間、「三人でガラスのうさぎをつくろう」という願いも、ついえきつてしまつた……。

焼け溶けた「ガラスのうさぎ」を、両親の墓に埋め、十二才の少女「敏子はけなげに荒廃した街へ歩きだす……。

●スタッフ
製作 武田 野原嘉一郎 敦
原作 高木 立原 勝典
企画 「ガラスのうさぎ」脚本 橋 功
脚本 監督 橋山本野 透徹
撮影 幸田内田 欽哉
照明 本田 仁哉
美術 小六禮次郎
音楽 音楽

(上映時間 一時間四五分)



共同映画株式会社

本社 〒150 東京都渋谷区桜丘町15-11 TEL. 03(463)8245(代)
FAX. 03(476)3757

東北支社 〒980 仙台市中央2-1-15 仙台マンション TEL. 022(225)0986
FAX. 022(268)5264